

(8) これまでの取組みの検証

① 生活環境の保全

【空気のすがすがしさを確保する】

- すべての観測地点で大気汚染の環境基準を達成し、低公害車も普及しています。
- 事業所排出ガス対策をはじめ、屋外焼却、悪臭発生に対する啓発、指導を進めています。

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
大気環境基準達成状況	すべての観測地点で環境基準を達成する	8/8地点 (平成22年度)	100%
低公害車普及台数	100台を目指す	377/100台 (平成22年度)	377%

【管理項目】

管理項目	管理方針(平成19年度)	件数
大気汚染・悪臭苦情件数	苦情をできる限り施策に反映するよう努める	10件 (平成22年度)
交通規制の見直し件数	自動車利用の抑制、交通渋滞の緩和に向けた規制見直し(一方通行など)に努める	3件 (平成22年度)

【きれいな水環境を確保する】

- 総量としての河川水質はおおむね水質汚濁の環境基準を達成しています。

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
河川水質(BOD・SS)	観測地点でBODが3mg/ℓ以下、SSが25mg/ℓ以下(B類型相当)の水質を確保する	BOD 3/5地点 (平成22年度)	75%
		SS 5/5地点 (平成22年度)	100%

【管理項目】

管理項目	管理方針(平成19年度)	件数
水質汚濁苦情件数	苦情をできる限り施策に反映するよう努める	3件 (平成22年度)

【語句説明】

- ・ 目標項目 … 環境保全のための具体的な数値目標を定めるもの
- ・ 管理項目 … 数値だけで評価できない項目について、その動向を把握するもの
- ・ 調査項目 … データの収集を進める必要があり、調査の方針を定めるもの

【静けさを確保し、音風景を残していく】

- 騒音の環境基準を達成していない観測地点があり、騒音苦情件数も増加傾向にあります。
- 個別の騒音対策として市民の方からの苦情に対応しています。

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
騒音環境基準達成状況	すべての観測地点で環境基準を達成する	5/8地点 (平成22年度)	63%

【管理項目】

管理項目	管理方針(平成19年度)	件数
騒音苦情件数	苦情をできる限り施策に反映するよう努める	6件 (平成22年度)

【有害化学物質による環境汚染を防止する】

- すべての観測地点でダイオキシン類や地下水質の環境基準を達成しています。
- アスベスト分析調査については、2006年度～2010年度(平成18年度～22年度)に市内2か所で市が調査を行っており、いずれも環境基準を下回る結果となりました。

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
情報提供が可能な有害化学物質数	PRTR制度の対象物質[2001年(平成13年)現在で354物質]について情報を提供する	354/354物質 (平成22年度)	100%
地下水質環境基準達成状況	観測地点で環境基準を達成する	1/1地点 (平成21年度)	100%
ダイオキシン類に係る環境基準達成状況	大気・水・土壌中の濃度を調査し、調査地点で環境基準を達成する	2/2地点* (平成15年度) (平成19年度)	100%

※ 水：2003年度(平成15年度)1地点、土壌：2007年度(平成19年度)1地点

<アスベスト粉じん濃度測定調査結果>

採取場所名	測定結果(本/ℓ)		
	平成20年	平成21年	平成22年
キリンビール跡地(寺戸町寺田1-8)	<0.3	<0.3	<0.3
JR西日本京都運転所(鶏冠井町八ノ坪1-1)	<0.3	<0.3	<0.3

* “<”は定量下限値未満を示す

② 都市環境の創造

【緑を楽しめるまちづくりを進める】

- 1人当たりの公園緑地面積の目標を達成するため、公園の整備に取り組んでいます。

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
公園緑地面積	市民1人当たり2.0㎡	1.25/2.0 ㎡ (平成22年度)	63%
市域面積に対する 緑地割合	緑地割合を32%に増やす	31/32% (平成22年度)	97%
公共公益施設(1,000㎡ 以上)の緑化面積	敷地面積の8.5%	6/8.5% (平成22年度)	71%

【安心して親しめる水辺をつくる】

- 市民が水辺と親しむ機会の充実が求められています。

【歴史的資源をまちなみづくりに生かす】

- 乙訓八景に長岡宮跡など本市の3か所が選定されており、歴史的・文化的資源を生かしたまちづくりを進めるための景観計画の策定を検討しています。
- 歴史拠点として朝堂院西第四堂跡を整備しましたが、さらなる取組みとしてのまちなみづくりが求められています。
- 竹の活用推進については「竹の径」の整備を継続して実施します。また「竹の径・かぐやの夕べ」を通して、竹の活用に取り組んでいます。



朝堂院跡



竹の径・かぐやの夕べ

③ 人と自然の共生

【動植物と共にすめる環境を維持する】

- 自然環境調査は、小学生による河川調査が実施されていますが、その他の基礎データの収集が不足しています。
- 2003年度（平成15年度）に小学校2校においてビオトープの活動が保護者や地域住民の協力で始まりました。
- 農地の保全と活用、竹林の維持管理をする市民参加の仕組みづくりについては、フロンティア協会、市民ボランティアなどが主体となって、竹林の維持管理作業を年1回実施するなどの取組みがあります。

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
ビオトープ数	6か所(各小学校)以上のビオトープを整備する	2/6か所 (平成22年度)	33%

【管理項目】

管理項目	管理方針(平成19年度)	総面積
竹林・雑木林等面積	現状を維持するとともに、京都の自然200選にふさわしい景観を保全する	92.3 ha (平成22年度)

【調査項目】

調査項目	指数化方針(平成19年度)	確認数
身近な生き物の生息地確認数	身近な生き物について調査を行い、基礎データを把握し、定期調査によって動向を監視する	2か所 (平成22年度)



市内の農地

【自然と親しみ、学ぶ機会を増やす】

- 花いっぱい運動の参加団体を増やす取組みの他に、休耕田を利用したひまわり畑を普及させる取組みを進めています。
- 竹の径・かぐやの夕べを実施しています。



ひまわり畑

④ 資源の循環的利用

【1人当たりのごみ排出量を減らす】

- 1人当たりのごみ排出量は大きく削減され目標を達成しており、生ごみ堆肥化容器普及数と生ごみ堆肥化設備設置箇所数は目標の達成を目指して取り組んでいます。
- 簡易包装やエコマーク商品の販売などに積極的に取り組む小売店等をごみ減量推進協力店として認定しており、目標達成へ啓発を進めています。
- マイバッグ運動の実施により買物袋利用者は増えており、2011年度（平成23年度）の向日市まつりにおけるアンケート調査結果から2007年度（平成19年度）の35%から58%に増加していることが分かりました。
- ごみ分別方法、費用等に関する情報の提供については、ごみの出し方・分け方カレンダーの全戸配布を通じて実施しています。
- ごみの分別収集・減量化に向けて「ごみ減量のしおり」の配布に取り組んでいます。



生ごみ堆肥化容器（購入補助）



エコ地域推進委員によるノーレジ袋・マイバッグ運動の推進活動

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
1人当たりのごみ排出量	2005年度(平成17年度)を基準として5%削減する(1日当たりの排出量を633gから600gへ削減)	578g (平成22年度)	167%
生ごみ堆肥化容器普及数	1,000世帯に普及させる(全世帯の5%)	323/1000世帯 (平成22年度)	32%
生ごみ堆肥化設備設置箇所数	学校をはじめとする公共施設5か所に設置する	3/5か所 (平成22年度)	60%
ごみ減量推進協力店数	ごみ減量推進に対する協力店100店舗以上を認定する	29/100店 (平成22年度)	29%
買物袋利用者割合	2005年度(平成17年度)のアンケート調査結果(35%)を踏まえ、50%の普及を目指す	58% (平成22年度)	116%

【資源の有効利用を促進する】

- ごみの資源化率達成に向けてリサイクル市(ひまわり市)、紙パック回収ボックスの設置などの取組みを継続しています。
- 廃食油回収の支援を行っています。



ひまわり市



紙パックの回収箱



廃食油回収

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
ごみ資源化率	容器包装類の分別収集を徹底し、収集ごみの30%を資源化する	4.7/30% (平成22年度)	16%

【ごみの適正処理を推進する】

- ごみの出し方・分け方カレンダーの配布、ごみゼロ・向日市一斉クリーン作戦の実施、環境美化活動などの取組み、不法投棄の監視パトロールなどを実施しています。

<年度別不法投棄家電件数>

	エアコン	テレビ	冷蔵庫	洗濯機	合計
H18	8	17	7	5	37
H19	2	23	12	13	50
H20	2	24	6	8	40
H21	0	32	12	11	55
H22	0	46	13	9	68

【地下水を保全し、水環境を守る】

- 公共施設の雨水浸透施設導入を進めています。
- さらなる雨水利用施設導入を促進しています。

【管理項目】

管理項目	管理方針(平成19年度)	件数
雨水浸透施設導入件数	公共施設の整備において雨水浸透施設の設置や透水性舗装を実施し、雨水の地下浸透を促進する	10件 (平成22年度)
雨水利用施設導入件数	今後新しく整備する公共施設において、1施設当たり1件以上導入する	3件 (平成22年度)

⑤ 地球環境の保全

【地球温暖化防止に向けた行動をとる】

- 2008年度（平成20年度）に向日市地球温暖化対策実行計画を策定し、市関連施設で2013年度（平成25年度）までに温室効果ガスの排出量を2007年度（平成19年度）比で5%削減することを目標として取組みを進めています。2009年度（平成21年度）は3.3%削減しましたが、2010年度（平成22年度）は2.1%、2011年度（平成23年度）は1.8%の削減にとどまり、今後一層の取組みが必要です。

＜市事業に係る温室効果ガス排出量の推移＞

	総排出量 (t)	基準年(H19)からの増減
H21	4,308	△3.3%
H22	4,363	△2.1%
H23	4,378	△1.8%

2007年度（平成19年度）総排出量 4,457t との比較

- 地球温暖化防止活動啓発チラシを全戸配布しました。
- グリーンカーテンの取組みが増えています。
- 2007年度（平成19年度）から第2向陽小学校では、特産の竹を利用して教室の室温上昇を抑制する省エネ対策に取り組んでいます。
- 地産地消の推進など、資源循環利用の仕組みづくりについては、小学校で地元農家の栽培野菜や、児童が栽培した大根、サツマ芋を給食に使用するなどの事例が見られるほか、愛菜市では地元農産物の販売が行われています。

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
温室効果ガス排出量	1990年（平成2年）を基準年として総排出量を10%削減する	2.1/10% (平成22年度)	21%



市役所のグリーンカーテン

【エネルギーを効率的に利用する】

- 太陽光発電を設置する世帯は年々増加しており、2010 年度（平成 22 年度）は 202 世帯となっています。目標値の 230 世帯に対して達成率は 88%となっており、目標の達成に努めています。
- 小学校における竹を利用した室内温度上昇を抑制する活動や、公共施設の省エネ型設計・設備導入の実施がみられます。
- エネルギー利用における地球温暖化対策に関する情報提供については、クールビズ、ウォームビズの実施や、自家用車の利用抑制を広報にて呼びかけています。

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
太陽光発電設置世帯数	一般世帯230戸への設置を目指す	202/230 (平成22年度)	88%

【オゾン層保護の取組みを推進する】

- フロンを使用している家電製品の適正処理の呼びかけを通じてオゾン層保護の取組みを進めています。

資源循環・省エネを取り入れた環境学習

第2向陽小学校では、伐採された 500 本ほどの竹を屋上に敷き詰めています。竹を敷き詰めることにより、真下の教室の室温上昇を緩和させることができます。効果の検証では子供たちが天井の温度を測定し、自らの目で確認しながら温度管理を行っています。

また一定期間使用した竹は、地区の協力によりチップ化して肥料としてトマト畑で利用しています。畑に肥料として入れることにより、隙間ができて理想的な土壌となります。

このように学校を舞台として、地域の資源を有効利用した省エネ対策が地域と一体となって実践されています。さらに環境学習という側面もあり、このような活動が今後増えていくことが期待されます。



竹を利用して室内温度上昇を抑制する活動

⑥ 環境保全への市民参画

【環境に関する情報を収集し、提供する】

- 小学校でエコ新聞を作成し、地域に配布しています。
- 市のホームページ上で各種情報を提供しています。

【環境教育・環境学習を推進する】

- 市民講座開催数、市民講座受講者数、環境教育時間数ともに増加傾向にあります。
- 各学校において自然環境、地球温暖化等をテーマとした環境学習に取り組んでおり、出前講座の開催や、地域住民による小学校へのビオトープ導入などの取組みが展開されています。
- 食育と環境を結びつけた市民講座を実施しています。

【目標項目】

目標項目	目標値(平成19年度)	実績値	達成率
市民講座開催数	環境をテーマとして、年4回以上の市民講座を開催する	3/4回 (平成22年度)	75%
市民講座受講者数	上記市民講座を年間延べ200人以上が受講する	177/200人 (平成22年度)	89%

【管理項目】

管理項目	管理方針(平成19年度)	実績
環境教育時間数	小学校、中学校それぞれで実施する環境教育について、適正な時間の確保に努める	636時間 (平成22年度)



市民講座（エコクッキング）



出前講座（エコホームプランの実践）

【環境保全活動に参加する】

- エコホームプランを2002年度（平成14年度）、エコオフィスプランを2004年度（平成16年度）に全戸配布しています。
- 民間団体や事業者による、自然保護活動や環境保全活動などが見られ、個人でも環境に配慮した活動をする人が増えるなど、環境保全活動は、次第に活発なものとなりつつあります。
- ごみゼロ・向日市一斉クリーン作戦を定期的の実施し、市民参加型の環境保全活動を進めています。



エコホームプラン



エコオフィスプラン



ごみゼロ・向日市一斉クリーン作戦